

「社会福祉法人による地域における公益的な取組」に係る実施状況アンケート 集計結果

<調査概要>

- 目的 「地域における公益的な取組」について、コロナ禍においても工夫をしながら進めている実践事例を把握する
- 調査対象 静岡県内の福祉施設・事業所
- 調査方法 Webアンケート
- 調査実施期間 令和2年9月9日(水)～9月25日(金)
- 回収数 117件
- 実施主体 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会



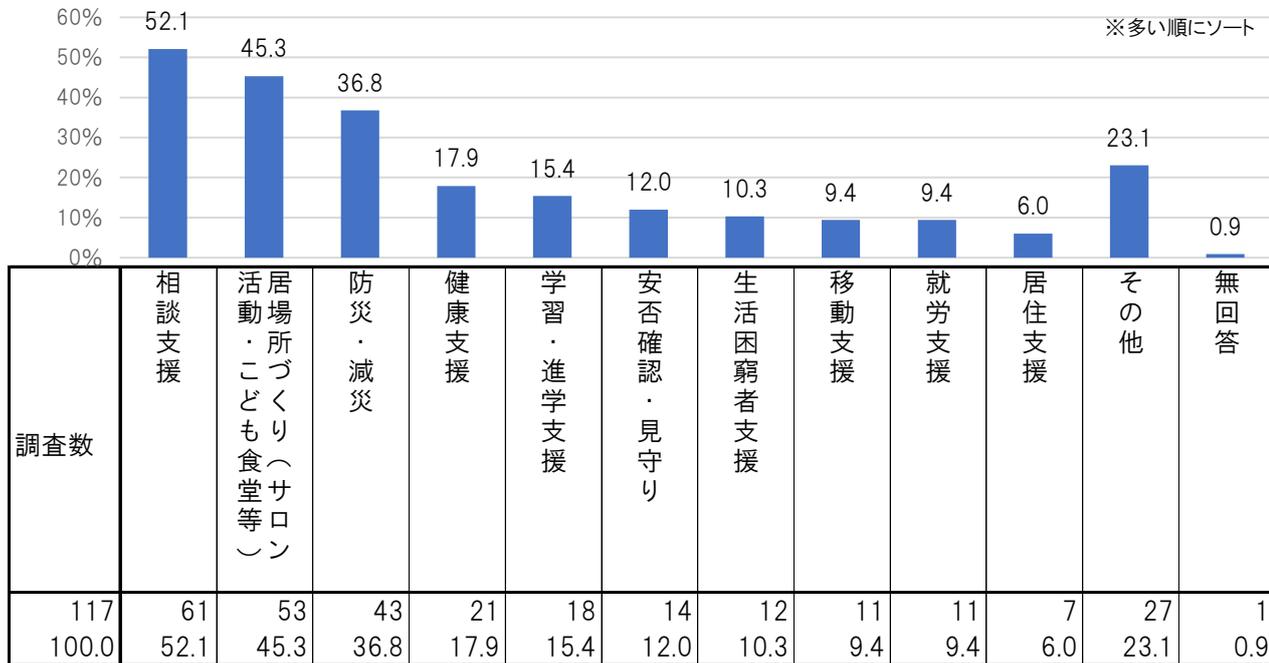
社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

集計結果

■ 貴施設・事業所における取組内容(コロナ禍以前の取組内容)について

Q. 貴施設・事業所で取り組んでいる内容について、以下の項目から選択してください。(複数選択可)

取組内容については、「相談支援」が全体の52.1%で最も高くなっている。次いで「居場所づくり(サロンの活動・子ども食堂等)」が45.3%、「防災・減災」が36.8%と続く。

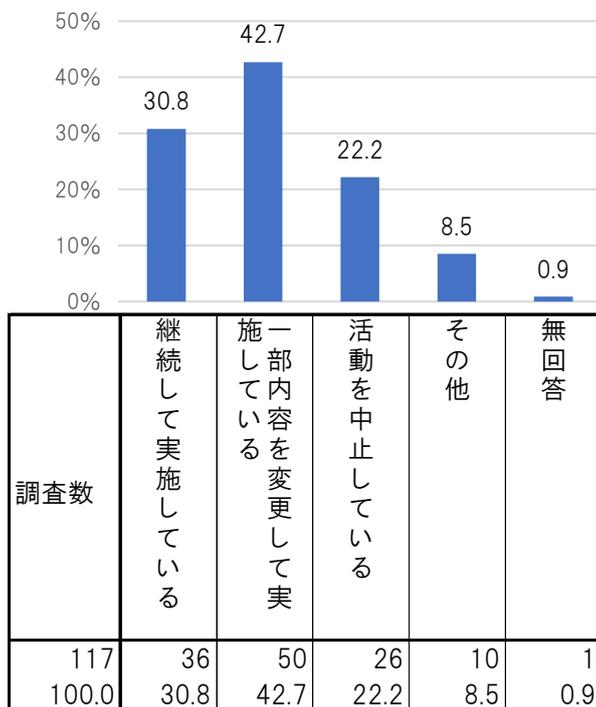


単位: 上段件数、下段%

■ 現在(コロナ禍における)取組状況について

Q. 貴施設・事業所における現在の取組状況について、以下の項目から選択してください。(複数回答可)

現在の取組状況については、「一部内容を変更して実施している」が42.7%と最も高く、「継続して実施している」が30.8%、「活動を中止している」が22.2%という結果となった。



単位: 上段件数、下段%

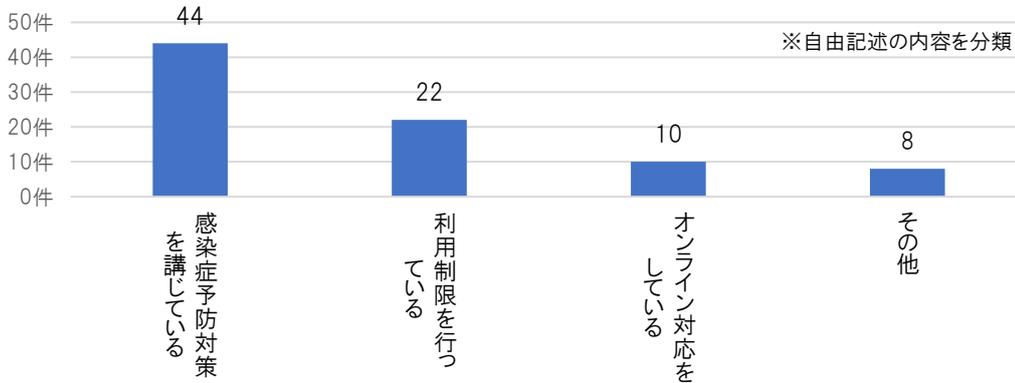
集計結果

■コロナ禍においても活動を続けるために工夫している点

Q.(前問で「継続して実施している」「一部内容を変更して実施している」と回答している方に)

コロナ禍において活動を続けるために工夫している点について(自由記述)

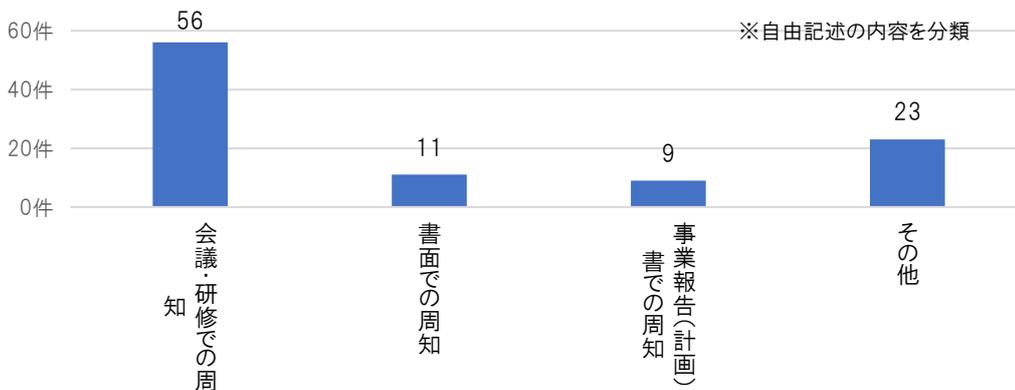
コロナ禍で活動を続ける工夫としては、3密を避ける、健康観察を行う、アルコール消毒を行うなどの感染予防対策を講じているとの回答が目立った。そのほか、利用者の人数制限や地域の限定、時間の短縮など何らかの利用制限を行っているとの回答や、オンライン対応を行っているとの声が挙げられた。



■取組の意義の周知のために行っていること

Q.地域における公益的な取組の意義や取組内容を全職員に周知、認識してもらうための取組について(自由記述)

取組の意義の周知で行っていることについては、職員会議や研修、交流会などの集まる機会において周知しているとの回答が多く挙げられた。そのほか、文書の回覧やパンフレットの配布、広報誌への掲載など書面で周知しているとの回答、事業報告書などで周知をしているとの回答が挙げられた。



■県社協に期待したいこと

Q.地域における公益的な取組を進めるために県社協に期待したいこと(自由記述)

県社協に期待したいことについては、取組みの事例紹介を要望する回答が特に目立った。そのほか、活動への支援や関係各所との連携を期待する声が挙げられた。



■コロナ禍においても活動を続けるために工夫している点

Q.(前問で「継続して実施している」「一部内容を変更して実施している」と回答している方に)

コロナ禍において活動を続けるために工夫している点について(自由記述)

【感染症予防対策を講じている】

- コロナ対策を徹底の上で開催している。
- 屋外で実施できるものとした
- サロン活動は継続、こども食堂は中止している。サロン活動は参加者の健康チェック、マスクの着用をお願いしている。
- 密を控えた対応をしている。
- 行事内容の変更や、日ごろのコロナの予防対策の強化
- 相談支援は広いスペースにおいて、飛沫感染防止等の措置を講じながら実施している。サロン活動は、現在までのところ自粛しているが、運営ボランティアに対し、再開に向けた感染対策の指導助言を行いながら、再開時期を模索しているところである。
- 地域包括支援センターの取組
 - 1)利用者様宅の訪問にあたりフェイスシールド、簡易予防着、消毒液の持参等をし対応にあたっている。
 - 2)サロンなどの地域住民の方々が集まる会合においては、大きな会場を確保し、参加者を少人数にわけ、回数を多くし、3密とならない十分な間隔や、換気の確保、参加者の検温、体調確認を行った上で実施している。
- 検温・マスク・部屋の換気・空気清浄機・アルコール消毒等
- 参加人数規制、感染症対策、オンライン対応
- 3密を控えて行っている
- 協力機関との連携の際、健康管理など調整を行っている。
- 関係者利用者すべての検温チェック、3密を避け、食事提供も自粛
- 全ての事業でソーシャルディスタンス等コロナ対策を意識して取り組んでいる。
- 3密を避け、アルコール消毒など相談者が安心して相談支援できるようにした。
- 職員の感染予防対策、地域の感染状況等を確認した上で参画を判断している。
- 地域の老人サロンの方との交流を行っていますが、密になる交流は避け、子どもたちの太鼓の演奏を広いホールで換気をして密にならない配慮をして見ってもらう等している。
未就園児への園庭開放は、中止していますが、入園を考えるにあたり保護者の方が各園を見学したり就園についての相談ごとについては対応しています。話を聞くのに、密を避ける、換気をする、広い場所でも実践しながら行う。
どちらも、体調の悪い方は遠慮していただき、消毒、マスクの着用をして参加していただいている。
- 感染予防の環境づくり。パーティションや相談の事前予約の実施。
- 3密を避けるために、座る位置の間隔を空けたり、消毒・検温の実施など。
- ①ウイルス感染防止対策(マスクの着用、アルコールによる手指の消毒、3密の回避等)を徹底し実施している。②残念ながら今年度は中止。
- 密を控えた援助や見守り。行事やイベントの中止。
- 3密を避けるように配慮している
- 3密を避けるように、相談支援を行っている。
- ①このコロナ禍で生活困窮者自立支援センターの相談が急激に増加したため自主財源で通訳や電話対応者を増員した。
②就労支援事業所の賃金確保と地域住民のマスク不足への対応の為、自己財源で就労支援事業所に布製マスク作
- 事前の健康観察と行動履歴の確認
- 感染対策を徹底した上で実施している。
- サロン活動及び送迎を自粛期間中は中止し、その後、感染症対策を取って実施
- 相談支援について、対面での受付の場合の感染予防策を講じたり、電話での相談も受け付けるようにしている
- 感染症対策をした上での実施 こども食堂の食事の提供方法を変えた
- 感染予防対策をした上で実施している
- パーティションを設けるなど3密を控えた相談支援等を行っている。
- 市の方針に従い、家庭(事業所)内での防災訓練とした。施設開放は、コロナ対策を講じた上で受入れの方向だが、本年度の利用はない。
- 居場所作り、学習支援は中止とした。(現在、一部再開)移動支援は職員、利用者へのコロナ対策(マスク、アルコール消毒)を徹底し、継続して実施した。
- 食事は3密を避けるようスペースを取るようになっている。居室の換気、消毒の徹底。
- 職場に於いては、マスク着用、手洗い実施、1時間毎の換気、1m以上のディスタンスなどを実行している。また、普段の体温と比較して、高温のときにはすぐに作業所に連絡、休むよう促している。加えて、通所日以外の日の行動については、頻繁な外出・密を避け、マスク着用や手洗い実施をするよう保護者にもお願いしている。
- ショートステイ利用者様に対しては、新規受入れを中止し、入居者様への面会及び、関係業者様の立ち入りを制限し、コロナ感染予防を実施しながら運営している。
- 検温 消毒 避ける3密 換気 職員はマスク
- 3密に注意して介護予防教室等を開催。感染予防に注意した上での相談支援
- 3密を控えた見守り
- 感染予防への配慮

■コロナ禍においても活動を続けるために工夫している点

Q.(前問で「継続して実施している」「一部内容を変更して実施している」と回答している方に)

コロナ禍において活動を続けるために工夫している点について(自由記述)

- 毎週BCM対策委員会を開催し、県内市内の感染状況を確認するとともに法人内の感染対策の進捗を共有している。各事業所の運営・取組についてどのように実施するか等も確認・指示するようにしている。相談支援では、感染リスクが高い状況と判断した時には電話対応とした。直接処遇の現場では、支援内に応じてマスク、透明マスク、フェイスシールドの着用、手洗い消毒等により感染対策を徹底した。
- 職員への感染予防の意識づけを行うための周知を継続的に行った。
- 地域交流室の開放について、利用時に検温・氏名・連絡先を記入していただくようにした。
- 相談支援については、窓口での健康チェック(検温、症状、住まいの圏域等)をした上で、シールドを用いた短時間面談や電話での対応
- 感染予防の徹底、利用人数の調整
- ・手洗い、消毒とマスク着用のお願
- ・当日の健康チェック
- ・住所や連絡先の記入依頼
- ・人数制限
- ・間隔、距離を取り、室内の換気を行う

【利用制限を行っている】

- 実施日の変更、規模の縮小
- 参加人数規制、感染症対策、オンライン対応
- 子育て支援センターの受け入れ人数を制限している。
- 3密を控え利用人数を限定している
- 制限を設けて継続している(3密を避ける等)
- 時期を見ながら、人数を減らして間隔を開けて開催しているものもあります。ただし、完全に中止しているものもあります。
- 子育て支援センターの受入人数を制限。
- 東京等他県からの講師を中断している
- サロンは密にならないように予約制にする。時間を配分する。
- 広く告知はせず、過去の参加状況から必要とされている方に通知をし、利用定員の制限、換気の実施、健康チェックの事前実施、ボランティア募集は中止し法人スタッフのみで対応した。
- 広く告知はせず、過去の参加状況から必要とされている方に通知をし、利用定員の制限、換気の実施、健康チェックの事前実施、ボランティア募集は中止し法人スタッフのみで対応した。
- 人数の制限、会場の配置
- 利用者の居住地の限定
- 通所部門の分散化とエリア分けを行っている。
- 同法人運営の入所施設との接点を極力なくするため、行動エリアの制限と作業場、作業内容を変更して対応している。
- 年に1度、地域の方や、消防署の方、役場職員の方等を招いて、防災訓練を行っています。今年度は、感染症対策の為、外部の方は招かず、入所者と当施設職員のみで実施する予定です。
- 1人暮らしの方の会食は会食なしで会場の提供と送迎のみを行っている
- 就学前の児童に対する療育支援事業を行っているが、当法人が所在する下田市でコロナの感染が確認されたことから、感染防止の為に開催時期を延期したり、療育の1日の時間を半日にしたりして対応している。
- 時間短縮、飲食の制限他
- 利用人数の制限
- 進学支援について一部実習生の受け入れを控えている
- 感染予防の徹底、利用人数の調整

【オンライン対応をしている】

- 参加人数規制、感染症対策、オンライン対応
- 講師派遣や体験学習についてオンライン対応可能とした
- 地域の子育て支援出張プログラムは公民館等の開催場所の状況を踏まえ、3密にならず活動ができる場所を確保した。相談事業は電話メールを利用して対面にならないような活動をしている。
- 対面から手紙やメール等の書面で相談してもらえるよう促している。
- ○ 可能な限りスペースをとり、密を避けて実施
- ○ 内容を再検討しオンラインで実施
- 行事等の見直しをした。屋外の参加者制限をした。研修はオンラインで参加した。遠足等バス使用の行事は中止した。
- サロン活動の定員を減らし3密を控えた。配食の食器は使い捨てに変えた。web会議のツールを導入。
- 生活困窮世帯のお子さんの学習支援・生活支援事業等オンラインでの対応や時間を短くし持ち帰り食での対応など。
- オンライン機器を貸し出し、オンラインによる講師派遣、小学校の陶芸体験に関わる費用負担
- 園内見学者等育児相談は、対面パネルを設置し対応。地域の防災訓練は中止、連絡会議の参加、園内防災・洪水訓練は3密を避け離れて待機する等。オンライン研修。

■コロナ禍においても活動を続けるために工夫している点

Q.(前問で「継続して実施している」「一部内容を変更して実施している」と回答している方に)

コロナ禍において活動を続けるために工夫している点について(自由記述)

【その他】

- コロナ禍でも職員体制が取れるから
- 特には変更はない
- 地域の小学校の福祉教育に、講義や見学で協力している
- 施設を使って居場所・就労準備等を行っていたがコロナ禍で中止とした。代わりにフードバンクへの食材・非常食等の提供を行った。
- 新しい生活様式の徹底。
- 生活困窮者支援(あいちゃんレスキュー隊)は、コロナ禍は関係ない仕組みである。
- 入所利用者と外部との接点を限りなく少なくしながらも利用者の楽しみや余暇活動を充実させるために事業所内部でのイベントの企画や開催を増やしサービスの提供をしている。
- 安否確認も含めて利用者宅を訪問するようにした。

■取組の意義の周知のために行っていること

Q.地域における公益的な取組の意義や取組内容を全職員に周知、認識してもらうための取組について(自由記述)

【会議・研修での周知】

- 職員会議等で周知している
- 職員会議にて口頭で伝えている。
- 定例の職員会議において取組内容を報告し、共通理解を図っている。
- 取組を続ける上での職員での検討会を行っている。
- 職員会議等で定期的に話題にしている。
- 月一度の運営会議での報知、施設内掲示、回覧
- 職員会議、便り等で、サロン(園外児)の活動の報告
- 会議を開き周知
- 職員会議での周知、ポスター等の掲示
- 職員会議等で、その必要性等について周知している。
- コロナへの対応の際、行う意義をなし、3密等に気を付け行うことを話し周知した。
- 事業計画の職員会議での周知。資料等の配布。
- 特定の職員だけでなく、月によって参加する職員を変更した。
- 職員会等で活動報告を行う。出張プログラムの内容は入所児童向けにも実施し職員の前でも披露している。
- 研修報告会での実践報告 総会や地域勉強会での情報発信 ホームページでの情報発信
- 特別な取組はありませんが、職員会等で実習や行事の内容や担当する職員等について確認し、全職員で周知してい
- 園内研修の中に、地域における取組を実施するようにした
- 職員会議にて周知。
- 取組内容について、職員会議等で検討している
- 職員会議等で具体的な例を示し、説明。
- 施設で実施している取組について、職員会議内で報告した。
- 職員会議において周知
- 職員会議にて職員に周知
- 毎月の職員会・緊急を要する案件は、毎日行っているミーティングで職員に周知しています。当園は『要配慮者利用施設』なので、【避難確保計画】を作成し職員に周知しています。
- 職員会議の議題として取り上げ、話し合う機会を設けている。
- 全体会議の都度取組の確認及び職員に周知の徹底している
- リーダー会や朝の打合せ時に実施する内容を周知している。
- 取組みを会議や法人月刊誌等にて情報共有している。
- 職員会議や研修等、施設だよりやフェイスブック等での情報発信で周知。
- 施設内研修の年間計画に組み込んでいただき、定期的に意義や取り組み内容を研修を通じて周知している。
- 施設内研修の年間計画に組み込んでいただき、定期的に意義や取り組み内容を研修を通じて周知している。
- 事業所の会議にて共有周知
- 職員研修において説明
- 会議の回数を増やし、全職員への通達を心掛けている。
- 職員会議を通じ広報している。
- 公益的取組施設での研修を行い、周知。
- 担当者会議及び掲示板等により周知した。
- 管理職会議において、地域における公益的な取組の意義や取組内容を説明し、周知を図った。
- 職員会議、広報誌にて周知。
- 事業計画作成し、全体会議などで全職員に周知している
- 自治体や公共団体から、新型コロナウイルスに関する通知を頂いた場合は、職員に回覧したり職員会議で話し、内容によっては実施するようにしている。
- 現段階では全職員に周知することのできるツールはないが、ベテラン職員を対象とした研修を開催することで現場への周知が図れるようにしている。
- 会議等を通じ職員へ周知している。
- 朝礼や会議の場で取組内容を周知しています。
- 朝礼で実施日程報告。
- 子育て支援の専従者を置き、活動 全体会で情報交換
- 職員会議などで把握するようにしています。
- 取り組みについて朝会・職員会議等で説明や周知してもらう
- 話合いの場を持った
- 職員会議や幹部会議等で報告し、会議録を全職員に回覧している。法人広報誌にて紹介し、全員に配布している。
- 法人内に地域貢献事業検討委員会を設置している
- 法人内に地域貢献事業検討委員会を設置している
- 施設で実施している取り組みや意義等について今後職員会議で具体的に説明していきたい
- 啓発ポスターなど案内の掲示。園内打ち合わせにて周知報告。
- 交流会、意見交換会を設けている。
- 職員会議や、報告会の中で全職員に実施内容を周知し、お便りを作り回覧している。

■取組の意義の周知のためにやっていること

Q.地域における公益的な取組の意義や取組内容を全職員に周知、認識してもらうための取組について(自由記述)

【書面での周知】

- 活動へ参加してもらうように文書の回覧を行った。
- 運営母体が社会福祉法人であることを常に意識させるために、職員必携を全職員に配付し経営理念等の浸透に努めている。また、本会における公益的な取組が収録されている映像資料等を活用した周知活動を展開している。
- 定期的の子育て支援センターの活動予定を地域に知らせている(チラシ配布)。
- パンフレットを作成配布し職員その他関係者に周知
- 職員向け広報誌、サイボウズ(クラウドサービス)によるPCスマホ等での回覧閲覧
- 施設で実施している取り組みをブログ・広報誌などにアップしたり、昨年の活動を冊子にして回覧板に入れていただいたりしています。
- 地域にチラシを配布
- 掲示板による掲示及び書面による回覧
- 防災訓練の様子を広報誌に掲載
- アンケートの項目に入れ込む。施設機関紙の中に事業紹介のページを入れる。
法人内の広報誌を発行したり、ホームページ等に取り組みをアップし共有・周知した。

【事業報告(計画)書での周知】

- 事業報告に記載
- 毎年定期的に事業計画等で職員に報告している。
- 計画書(報告書)を作成、HPへ掲載。
- ・地域における公益的な取組の推進を理事長の経営方針として明記し、社内報などを用いて随時発信している
・事業報告書に地域における公益的な取組の記載欄を設けることで、推進の動機付けにしている
・創立記念の職員アンケートにて聖隷に積極的に取組んで欲しい項目の選択肢として提示した
・ホームページや法人パンフレットに主たる取組を紹介している
- 法人機関紙に掲載
○ 職員向け事業報告に一部を特記、もしくは一覧を掲載
- 事業報告として周知、活動内容で冊子等公表されたものも周知している
- 活動内容を報告、掲示
- 事業計画に地域との関わりに関するものを掲げた
- 法人全職員をグループ分けし、計画立案から実践までに関わる取組みをした。

【その他】

- 地域向けアンケート300世帯に実施。職員アンケートを実施。
- 周知済みのため特に実施していない
- 実際に複数職員が取組に関わることで 身をもって意義を意識できるようにしている
- 特になし。
- 全ての取組について多くの職員が参加しています。また詳細な活動内容についてはブログにて周知しています。職員アンケートは今後導入させていただきます。
- 地元の新聞等、取材をしていただく。その内容を掲示板に掲示、HPにて周知など
- 特になし
- 法人職員・地域住民300世帯にアンケート調査を行った。
- ホームページにて掲載しているため職員も時々見ているようです
- HPに記載
- 今後は施設としての取り組みを職員全員で考え実施していきたい
- アプリを使った園内連絡での周知をはかった。
- 職員全員に行う目標参画システムで周知・食事支援プロジェクトを職員主体で行い地域貢献意識の向上
- 本施設が市の福祉避難所になっていることを周知し、受け入れについて協議している。
- 現状視察
- 特になし。
- 特になし
- キャリアパスの中に地域における公益的な取組みの項目を作っており、各職員に確認してもらっている。
- 地域連携室の担当者が、地域の方との取り組みを伝えている
- 従前より長く実施している事業であるため、職員については事業実施の認識があることから、特に周知の為の取り組みは行っていない。
- 実際に活動参加してもらう。
- 実習生やボランティアの受け入れ
- 職員全員が何かしらの形で活動にかかわる

■ 県社協に期待したいこと

Q.地域における公益的な取組を進めるために県社協に期待したいこと(自由記述)

【他施設における取組事例などの紹介】

- 取組の実施例をさら知る機会を提供してほしい
- 他県の事例紹介など他の取り組みとの差別化を図るための施策。
- 各施設で取り組んでいる事の内容の把握をしてほしい。
- 県内外における取組について、引き続き情報発信してほしい。
- 他法人で取り組まれている成功例等をより具体的に知りたい。
- 施設で行っている公益的な活動を、(参考にしたかったので)たくさん紹介してほしい。
- 区分ごとの活動事例の紹介
- 他法人の様々な取組の紹介
- 各事業所での取り組みのきっかけとなるよう公益的な取組の実践例などを随時発信していただきたい。
- ホームページなどで県内他事業所の公益的な活動も広く見られるとよい。
- B型で下請けを中心に生産活動をしている事業所では、正直、職員に負担をかけることなく公益的な取組を実施することはなかなか困難なので、より多くの事例を紹介してほしい。
- 地域ニーズの共有、他県での先行事例の共有
- コロナ禍でも、継続して実施している事業所の対策方法の公開(居場所づくりに関して)
- 同じような環境(中山間地域など)での取り組み事例の紹介など
- 今であれば、ZOOMを使った公益的な取組紹介や複数法人での取組などを良い活動がありましたらご紹介ください。
- 良い取り組みや、このような活動も公益的取り組みという事例の紹介を継続してほしい。
- 対面が活動の基本だったので、コロナ禍により自分たちが何ができるのか悩み、軌道修正が進んでいない状況です。今回のようなアンケートなどで他法人での取り組みをご紹介いただくと参考となります。
コロナ禍では現在貸付事業などで社協はどこともてんでこ舞いだと思います。災害が起こればボランティアセンターの立ち上げなどでてんでこ舞いとなり、有事の際に頼りにするのは申し訳ない気持ちですが、逆に公益的な取り組みをしている社会福祉法人はこのような時には何かしたい法人が多いと思いますので、平時の際に(有事の時は)「このような協力をしてください」「このような動きを期待します」等日頃から情報共有を図れる場があるとお互いモヤモヤしないのではないのでしょうか。
- 対面が活動の基本だったので、コロナ禍により自分たちが何ができるのか悩み、軌道修正が進んでいない状況です。今回のようなアンケートなどで他法人での取り組みをご紹介いただくと参考となります。
コロナ禍では現在貸付事業などで社協はどこともてんでこ舞いだと思います。災害が起こればボランティアセンターの立ち上げなどでてんでこ舞いとなり、有事の際に頼りにするのは申し訳ない気持ちですが、逆に公益的な取り組みをしている社会福祉法人はこのような時には何かしたい法人が多いと思いますので、平時の際に(有事の時は)「このような協力をしてください」「このような動きを期待します」等日頃から情報共有を図れる場があるとお互いモヤモヤしないのではないのでしょうか。
- 活動内容紹介をアピールするため、各法人が重複して入力等するのではなく、それぞれが情報発信しているHPやチラシなどをリンクさせ、集約するような公益的な取り組み紹介ページが社協さんのページにあれば、事務量も大幅に増えることなく負担にならないと思います。又、各市町社協さんや、人材センターさんの各法人紹介なども連動させ、内容が重複しないような仕組みが必要と感じています。
- 他施設における具体的な取組の案内
- 公益的取組は社福法人にとって必須であることを、理解していただくセミナー、勉強会の開催。経営状況が厳しくとも取り組んでいる法人の事例紹介
- (1)地域における公益的取り組みの他施設との連携強化支援
(2)小・中規模施設での公益的な取組の具体的な事例の紹介
- どうしても、職員の負担が増える。少しでも解消するためには他の法人ではどのようにして取り組みをしているのか事例を知りたい。取り組みを進めるための助成金等の充実
- 他法人の実例集
- 公益的な取組の先進事例等の紹介を積極的に提供願いたい。

【活動支援・補助】

- 市社協へのサポート
- 公益的な取組については、組織によって「積極性」など温度差を感じています。頑張っている法人は、少なからずマンパワーや経費を費やしています。頑張っている法人を応援できるような取組をこれからも続けて頂きたいです。例えば、先日、広報誌に取り上げて頂きましたが、ある意味「お墨付き」を頂けたように、広報活動や連携活動等で、とても活動しやすい場面が多くありました。ありがとうございました。
- 広報活動の支援
- 保健師や歯科衛生士だけでなく、ベビーマッサージ等の多彩な講師の派遣・紹介。資金援助。
- 補助事業
- 子育てがうまくできない家庭への支援者の要請等
- 県社協の視点で地域の課題、必要とされる支援などを随時とりまとめ、迅速に提示してもらうことで、地域の社福が今できることが明確になり、共同して参加する事業も増えるのではないかと
- 町指定の避難所が遠く(片道2km、徒歩17分)太田川を渡る等考慮すると、人力があればと思います。森町の方にも相談をさせて頂いています。
- 活動を専属に行える職員の確保、手立ての援助などを受けたい
- 本取組にかかる備品や車両等の補助金の設定

■ 県社協に期待したいこと

Q.地域における公益的な取組を進めるために県社協に期待したいこと(自由記述)

- 災害時に備え、会員施設用の物資(日用品、非常食、飲料水等)及び物資を備蓄しておくスペースを確保し、必要なタイミングで供給出来るような仕組みを構築出来ると良いと思う。
- 具体的な支援例
- ・地域の催しなどに参加するのは、土日が多いため、職員の人件費や、道具の搬入搬出や物品の費用がかかるため補助金などがあると助かります。
・地域の未就児などに遊びに来てもらい自由に使ってもらう遊具や玩具など提供していただけたり、補助金で購入できる

【関係各所との連携】

- 地域の他法人や様々な社会資源との橋渡しの役割をお願いしたい
- 地域における福祉ニーズの把握、事業実施や法人間連携における調整役
- 現在も連携や協力を頂いております。引き続き宜しくお願いします。
- 地域において公益的な取組を進めるには、各市町の事業所間の情報共有や連携が必要不可欠であると思います。県社協には各市町の社協がその中心的な役割を担えるようにバックアップをしていただきたい。
- ボランティア活動員との連携をとっていききたい。
- 法人間連携がスムーズに行えるような環境づくりにご協力いただければと存じます。
- 地域へアピール 行政との連携
- 関係機関が連携できる仕組み整備
- 地域の諸団体との懸け橋。

【ニーズの把握】

- ニーズの発掘
- 地域ごとの要望(ニーズ)の把握
- ニーズの掘り起こし(リサーチ)
- ニーズの掘り起こし
- 地域のニーズに対応する、より具体的取組みを複数示していただきたい。協力できる取組みには参加していきたい。

【その他】

- 特になし
- 特になし。
- 引き続き社会福祉法人の取組みの周知をお願いします。
- 情報提供と研修の開催。
- 情報提供や共有 ボランティア組織の把握(代表者の連絡先)
- コロナによる自粛ムードによるやらない文化から、コロナ禍でもできることをPRしてみても良いかと思います。
- 特にありません。
- 事業と一体となっているものが多いため、大々的にPRできないものがあるということを世の中に示してほしいと思います
- 今のところ特になし
- 広報を行って欲しい。
- 特になし。
- 周知用チラシのひな型作成
- 特にありません
- 他県より情報発信は進んでいると思います。
- 対 県社協 ではないが 人員確保と予算
- わかりやすく大きなポスターを配布してほしい
- 特になし
- それぞれの主張や目的がありますが、人を選ばず、分断されず、皆が住みやすい街になるよう、今後も協力してやっていけるとありがたいと考えます。

「社会福祉法人による地域における公益的な取組」に係る実施状況

アンケート集計結果

令和2年10月

実施主体：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

〒420-8670 静岡市葵区駿府町 1-70

電話：054-254-5231(担当：経営支援課)